

<取材のお願い>

2023年2月7日

山形大学

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

さくらサイエンスプログラム推進本部

インドネシアと日本の学生が協同で喫緊の課題に挑む ～アジアの生物多様性を消失の危機から救うために～

山形大学では2月15日（水）～2月23日（木）、インドネシアのガジヤマダ大学生物学部より大学生15名、教員2名、計17名を招き、国際的な課題となっている「生物多様性の保全」について理解し、解決に導くための研修プログラムを行います。ガジヤマダ大学は生物系の教育研究に特に力を入れている、インドネシア最高位の大学です。

アジア地域は地球上で最も生物多様性が著しい地域の一つです。しかし、インドネシアを含む多くのアジア諸国では、生物多様性の全容が未だ明らかになっていないばかりか、開発などでその消失が急速に進み、保全対策が追いついていないのが現状です。本研修プログラムは、こうした喫緊の課題を解決するための人材を育成することを目的として企画しました。

研修では、講義により植物・昆虫などの多様性に関する基礎的な知識や最新の系統分類学について学ぶほか、蔵王山を訪問して多雪地帯で生きる生物の多様性にも触れ、様々な環境下における生物多様性への理解を深めます。また、「調べる DNA 領域の設定」、「DNA の抽出」、「PCR 法による増幅」など、生物多様性を的確に記録し、保全する方策を考えるための「先端分子生物学的技術」の手法を実習により修得します。インドネシアの学生と本学の学生が協同で課題に取り組むことでお互いの理解を深め、アジアの生物多様性を消失の危機から救うために協力をし合える関係性を築く礎となることが期待できます。

本プログラムは科学技術振興機構（JST）主催の「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」*に採択されたものです。

*「国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）」

科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費を JST が支援します。



<https://ssp.jst.go.jp/>

つきましては、講義や実習の様子、蔵王山の多雪地帯での生物多様性を学ぶ様子などを取材して頂きたいようお願い申し上げます。なお、参加者をはじめ、実施担当の横山潤教授へのインタビュー取材もアレンジが可能です。ご希望の方は担当者までご連絡ください。

【実施内容】

- 講義
- 日本の自然環境視察（蔵王山）
- 実験
- データ解析
- 解析結果の報告

【研修日程概要】（*天候や実験の進行状況に応じて多少変更になる場合があります。）

- | | | |
|-----------|----|--|
| 2月 15日（水） | 午後 | 入国 |
| 2月 16日（木） | 午前 | オリエンテーション |
| | 午後 | 施設見学（理学部、附属博物館） |
| 2月 17日（金） | 午前 | 講義「アジア地域の自然環境の生物多様性～インドネシアと日本の比較から」 |
| | 午後 | 講義「植物の系統分類に関する最近の話題」
「昆虫の系統分類に関する最近の話題」 |
| 2月 18日（土） | 終日 | 日本の自然環境視察：
蔵王山の冬季の状況と多雪地帯で生きる生物の多様性 |
| 2月 19日（日） | 午前 | 解析対象生物種および解析に用いる DNA 領域の決定
生物試料からの DNA 抽出実験 |
| | 午後 | PCR 法による DNA 増幅実験（1） |
| 2月 20日（月） | 午前 | PCR 法による DNA 増幅実験（2）定量 PCR 法 |
| | 午後 | 増幅した PCR 産物を対象とした塩基配列の決定実験 |
| 2月 21日（火） | 午前 | 決定した塩基配列と既知配列の比較 |
| | 午後 | データ解析、解析結果のまとめ、意見交換会 |
| 2月 22日（水） | 午前 | 解析結果の報告 |
| | 午後 | 解析結果の報告、東京へ移動 |
| 2月 23日（木） | 午前 | 帰国 |

■本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

山形大学 担当：大嶋聡子

（小白川キャンパス事務部総務課社会連携担当）

■国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室

（担当：田中(禎)、太田）